



平成 11 年 8 月 30 日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所 2 号機 一次冷却水漏えい事故に関わる今後の対応方針について

当社は、平成 11 年 7 月 12 日に発生した敦賀発電所 2 号機（加圧水型軽水炉：定格出力 116.0 万 KW）格納容器内の一次冷却水漏えい事故に関し、現在、原因究明のための調査分析を行っているところであります。

これまでの調査から、再生熱交換器の連絡配管エルボ部及び胴体内面の割れは、当該再生熱交換器胴体内部の構造に起因する温度変動による高サイクル熱疲労が原因であると考えております。

当社といたしましては、これまでの状況を踏まえ、再生熱交換器一式を新しく製作したものに置き換えけるとともに、取り替え工事のため、本年 12 月から予定している第 10 回定期検査の開始時期を早めて実施することといたしましたので、お知らせいたします。

なお、この方針につきましては、本日、通商産業省、福井県、敦賀市にご報告いたしております。

以上

平成11年8月30日

敦賀市長
河瀬一治殿

日本原子力発電株式会社
取締役社長 鷲見禎彦

敦賀発電所2号機1次冷却水漏えい事故に係わる今後の対応方針について

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社事業運営につきましては、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この度の、敦賀発電所2号機1次冷却水漏えい事故の発生につきましては、敦賀市の皆様方を始め、各方面の方々に多大なご心配、ご迷惑をおかけしましたことに対し、心から深くお詫び申し上げます。

今回の事故につきましては市ご当局等からの申し入れも充分踏まえ、徹底的な原因究明と抜本的な対策を講ずるよう努力しております。

化学体積制御系再生熱交換器連絡配管エルボ部及び胴体内面の割れの原因究明に関しましては、設計、製造から運転段階に至るまで、幅広い観点からの調査分析を鋭意行っております。これらの調査分析につきましては、通産省等関係機関のご指導を得つつ、原子力安全委員会において審議して頂いております。

これまでの調査によれば、再生熱交換器の連絡配管エルボ部及び胴体内面の割れは、当該再生熱交換器胴体内部の構造に起因する、温度変動による高サイクル熱疲労が原因であると考えております。

当社としましては、引続き原因調査を進めることと致しますが、現在までの状況を踏まえ、今後、以下の方針で取組むことと致しましたので、ご報告申し上げます。

1. 再生熱交換器一式は今回の原因調査を踏まえ、新しく設計・製作したものに取替えることとします。
2. 再生熱交換器の取替工事を行うため、本年12月から予定している第10回定期検査については、開始時期を早めて実施する計画とします。

今後とも原子力発電に対する地元の皆様の信頼を回復出来るよう、全社を上げて最大限の取組を行ってまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

敬 具